

さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.893
2020.10.25

発行

日本共産党さいたま市議会議員団
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165
http://www.jcp-saitama.jp/

神田よしゆき	とば めぐみ
とりうみ敏行	金子 あきよ
松村 としお	たけこし 連
久保 みき	

子どもの最善の利益にたった 保育所整備を

決算 (保健福祉委員会関連)

10月2日、決算特別委員会(保健福祉委員会関連)が開かれ、とばめぐみ市議が質問に立ちました。

とば 昨年度、本市は認可保育所を増やしても需要は満たしきれず、待機児童は387名で日本一となった。不承諾率はずっと3割を超えている。認可保育所整備率(就学前の子どもの数に対する認可保育所の定員数)がもっとも少ない本市が、待機児童で日本一になるのは当然。認識をうかがう。

市 認可保育所の整備率は政令市で最低、不承諾者も右肩上がりだが、認可保育所整備に力を尽くしている。来年4月、待機児童ゼロをめざす。

とば 賃貸物件を中心に要件緩和で保育所を増やし、待機児童を解消しようとする市の姿勢は認められない。緩和した要件で、子どものためによくなったことが一つでもあるか。



市 特段運営に支障はない。

とば 要件は子どもの命と育ちを守るためのもの。運営に支障はなくても緩和することは保育の質の低下につながる。保育所は単なる「入れモノ」ではない。子どもの最善の利益という視点で保育所を増やすべき。

市 本市は入所保留児童と待機児童が多い。当面既存の配置基準を維持する。

とば 昨年度公立保育所の産休明け保育を10園削減し、本市の公立保育所の役割を大きく後退させた。その理由に保育室の修繕があったが、修繕を終えたら産休明け保育は再開させるのか。

市 来年度、修繕が完了した1園は産休明けに戻す。ほかは引き続き6カ月からの受け入れとする。

とば 市は削減した産休明けを一日も早く戻



決算 (まちづくり委員会関連)

ただちに見直せ！ 大宮 GCS 化構想

10月5日、決算特別委員会(まちづくり委員会関連)が開かれ、とりうみ敏行市議が質問に立ちました。

「大宮駅グランドセントラルステーション(大宮 GCS)化構想」は、2018年7月策定の基本計画以来、いまだに総事業費が明らかにされないまま、構想だけが膨らみ続けている事業です。とりうみ市議は、あらたに明らかになった「ランドマーク」構想について市の考えを質しました。

とりうみ 2018年の基本計画では、大宮のシンボル都市軸の形成とうたっているだけで具体性がなかったが、今回はじめて「ランドマーク」という記載が出てきた。「ランドマーク」とはなにか。

市 大宮 GCS 推進会議の意見を受け、大宮を象徴するランドマークの必要性を認識し、シンボル性の高いランドマークとの記載をした。

とりうみ ランドマークとは、東京タワー

など、どれを見ても大きな建物を指す。計画されている高層ビル群のほかにつくことになるが、財政面について検討したのか。

市 費用については内容などが決まっていないことから言えない。

とりうみ市議は、「一般的にランドマークと言え、その土地における方向感覚の目印になる建物、国や地域を象徴する建物、空間と言われている」と示しながら、「党市議団がかねてから指摘してきたように、事業の全体像や総事業費が明らかにされないまま、財源に関係なく新たな構想や建物が出てくるようなやり方は、将来の市民負担を考えたら直ちに改めるべき」と強く求めました。

その他、大宮 GCS 化構想と同様に総事業費が明らかにされないまま本格整備に進もうとしている「長距離バスターミナル」事業についても取り上げ、巨大な財源は市民のためにこそ使うべきと求めました。

すべき。

とば市議はその他、コロナ禍でも保育所と放課後児童クラブが開所を求められた件につ

いて「開所しなければ社会がまわらなかった」と指摘し、どちらも思い切って施設整備を進め、処遇改善を急ぐことを強く求めました。

投票率向上のため 投票所を増やして



決算(総合政策委員会関連2日目)

保障するためにも投票所を増やすべき」と求めました。

※郵便投票の対象は、身体障害者手帳か戦傷病者手帳保持者(一部)と要介護5の方。

9月28日、決算特別委員会(総合政策委員会関連2日目)で、とばめぐみ市議が質問に立ちました。

とば 選挙管理委員会の運営方針である「投票率向上のため、選挙人が気軽に投票できる環境づくり」のために、どんなとりくみをしたか。

市 市報やホームページ等で郵便投票(※)の周知に努め、適用範囲の拡大を国に要望している。

とば 2018年末に見沼区の住民から「歩いていけるところに投票所を設置してほしい」という要望書が出されている。「遠くて投票所へ行けない」「免許を返納し、夫婦ともに投票をあきらめた」などの声も寄せられている。この切実な声にどう応えるか。

市 個々の対応が難しく、具体的な対応はしていない。

とば市議は、「低投票率は憂慮すべき事態。運営方針にもあるように、有権者に投票権を

中小企業を廃業させないために

次に、中小企業の資金融資について質問しました。

とば 昨年度の緊急特別資金融資の利用件数・額が前年度の約3倍となった要因はなにか。

市 従来の年末年始の資金需要に加え、消費税引上げ対応、台風19号、新型コロナに対応した緊急特別資金融資を実施したため。

とば 昨年度における融資制度の改善は。

市 2018年度から緊急特別資金融資をはじめた。現在、金融機関や保証協会と融資利率の引下げについて協議を進めている。

とば市議は「コロナによって、返済をしていけるのか、税金が払えなくなったときに融資を受けられるのかなど、新しい心配が起きている。誰も廃業させないという決意で制度の拡充を」と求めました。その他、職員の働き方などについて質問しました。

コロナ禍で 浮かび上がった課題

1人ひとりの子どもを 大切にする市政へ



と孤立した家庭への支援の大切さがあらためて浮き彫りになったことを報告しつつ、「一人ひとりの子どもと対話すること、学校ではなにより少人数学級で一人ひとりを大切にするのが大事だ」と強調しました。

会場からは「自粛期間に子どもが減ったことでゆったりとした保育や保育士の休憩時間の確保、発達に配慮が必要な子どもへていねいな対応ができた」(保育士)、「子どもの気持ちの安定がないと学習に向かえない。行政は10万人拍手や民間英語試験ではなく、学校をもっとおおらかで楽しいところにする努力を」(教員)、など現場の声が出されました。

参加した松村市議は「保育でも教育でもコロナ禍を通じて抱えている課題が浮き彫りになった。規制緩和や民間任せの新自由主義的な行政から転換するよう議会で求めていく」と話しました。

10月18日に浦和区で「みんなのさいたま市をつくる会」によるコロナ禍でのさいたま市の子育て・教育を考える「子育て・教育シンポジウム」が開かれ、松村としお、とばめぐみ両市議が参加しました。

基調報告をした白鳥勲さん(彩の国子ども・若者支援ネットワーク代表理事)は、埼玉県のアスポート事業で貧困家庭の子どもたちの学習支援にとりくんでいます。白鳥さんは学校休校で「給食がなくなって1日2食以下の子どもが38%になった」「宿題が多く出されたが、放っておけば学力格差がひらく状態」

あなたの身近な議員です



市議(北区) 神田よしゆき 市議(浦和区) とりうみ敏行 市議(緑区) 松村としお 市議(桜区) 久保 みき 市議(見沼区) とばめぐみ 市議(南区) 金子あきよ 市議(中央区) たけこし連